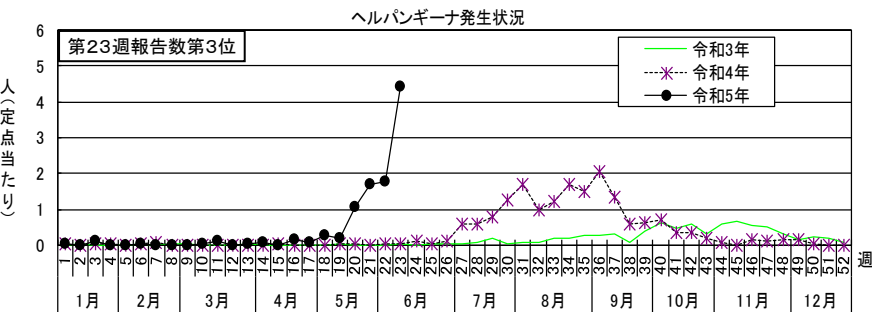
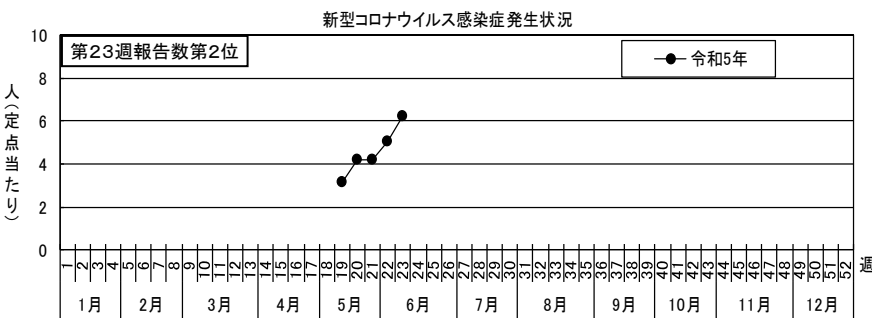
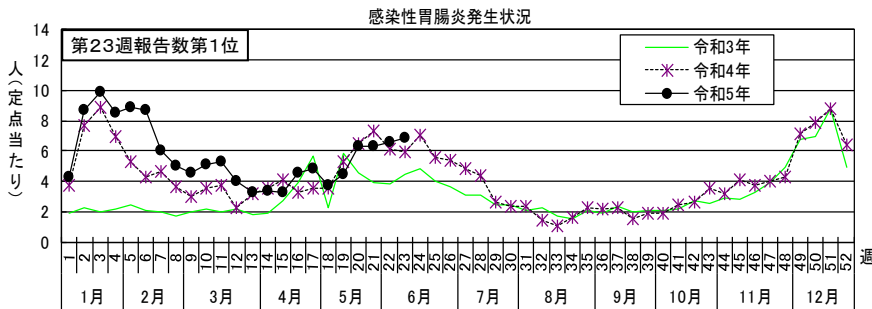


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年6月5日（月）～令和5年6月11日（日）〔令和5年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 新型コロナウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.86人と前週（6.57人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は6.21人と前週（5.02人）から増加しました。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.41人と前週（1.78人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

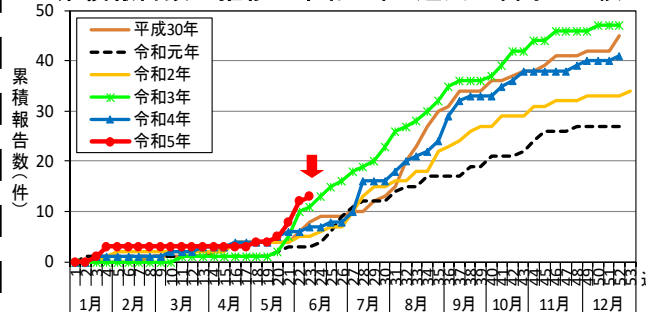


腸管出血性大腸菌感染症に気をつけましょう！

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌を原因とする感染症です。例年6月中旬頃から患者報告数が増加しますが、川崎市においては、今年は5月下旬から報告数の増加がみられ、第23週（6月5日～11日）までに計13件と、過去5年間と比べて最多となっています。

主な症状は、激しい腹痛、水様性の下痢及び血便ですが、特に小児や高齢者等では、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症等の重篤な合併症を引き起こし、命に関わることもあります。感染経路は、菌に汚染された食品を摂取することで感染する経口感染に加え、手や物を介した二次感染もみられます。生肉や加熱不十分な肉の喫食は避ける、調理器具の使い分け及び洗浄を行う、手指消毒を徹底する等の予防対策を心がけましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症
累積報告数の推移—令和5年と過去5年間の比較—



腸管出血性大腸菌感染症の予防対策

●食中毒予防

- ✓生肉や加熱不十分な肉の喫食は避け、肉類は中心部まで十分に加熱する。（75℃、1分間以上）
- ✓生で食べる野菜は流水でよく洗う。
- ✓肉を焼く際には、専用の器具（箸やトングなど）を使用する。
- ✓まな板は、使用の都度洗剤を使用して洗浄する。

●二次感染予防

- ✓食事の前、排便後などは手洗い、手指消毒を徹底する。

